

研究課題名	日本における急性心筋梗塞患者の治療および予後の実態調査(JAMIR前向き研究)
研究機関名	【主任研究者】 安田 聡 国立循環器病研究センター 副院長、心臓血管内科部門 部門長 【当院における研究責任者】 宮本 貴庸 武蔵野赤十字病院 総合診療科 部長
研究責任者	所属 総合診療科 氏名 宮本 貴庸
研究期間	(西暦) 2016年 3月 ~ 2019年 12月
研究の意義・目的	これまでに急性心筋梗塞に関する様々なデータが報告され診療の改善が図られてきました。しかし、これらのデータの多くは欧米の研究によるものであり、日本独自のエビデンス（この治療法が良いといえる証拠）を発信する事が求められています。以上の状況より、武蔵野赤十字病院倫理審査委員会による承認日～2017年5月31日の間に急性心筋梗塞を発症し入院治療を受けられた患者さんを対象に、退院された後も健康上大きな問題が発生していないかどうか、発生したイベントと使用されたお薬や治療法(抗血小板療法)の種類との関係を調べます。この研究をもとに患者様の検査、治療の質をさらに向上させるのが目的です。
研究の方法 (対象期間含む)	この研究の方法は当院の医師または担当者がカルテから患者様の急性心筋梗塞発症から9～15ヶ月後(追跡調査)までの情報を登録します。患者さんに直接ご協力頂くことはございません。追跡調査ですが、他院へ転院された患者様に対して、当院の医師が転院先に問い合わせ、または患者様に手紙を送付させていただくことをお願いしております。この際、患者様の健康状態にかかわること以外の内容を伺うことはございません。また、本研究は武蔵野赤十字病院倫理審査委員会承認日から2019年12月31日の期間で行われ、日本全体で約3000例、当院にて約155例の患者様にご協力をお願いする予定です。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)	①この研究では急性心筋梗塞患者の虚血イベントおよび出血イベントを記述し、イベントに関わる抗血小板療法の種類とイベントとの関係を検討するために、試料・情報の利用します。また、データはEDCシステムを介して収集し、本データを送付する場合には、匿名化作業を行い、送付するデータには氏名、住所など容易に個人を特定できる情報は含まない。
②利用し、又は提供する 試料・情報の項目	②カルテ情報(診断名、年齢、性別、身長、体重、血液検査、画像検査、心電図検査、内服薬、冠動脈治療の有無/方法、予後)
③利用する者の範囲	③国立循環器病研究センター 責任者：副院長、心臓血管内科部門・部門長 安田 聡
④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	④当院では研究責任者にて適切に試料・情報を管理します。 情報の提供先である、国立循環器病研究センターでは予防医学・疫学情報部(部長 宮本恵宏)にて保管する。
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 総合診療科 氏名 宮本貴庸 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525